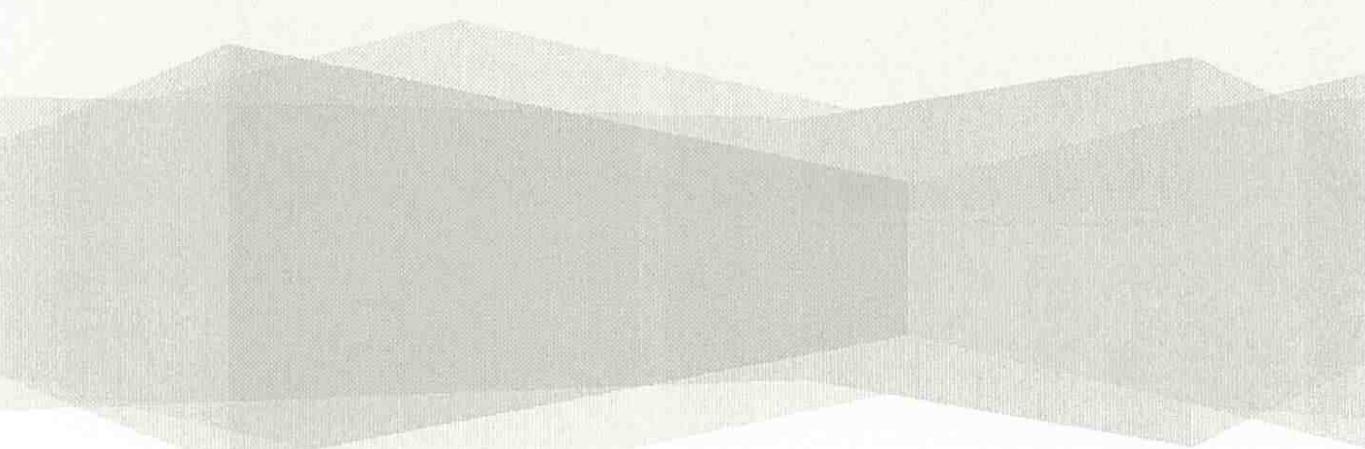


# プロジェクト報告書

コンセプトグラマー有限会社 京都朝げいこ

川口栄 西田和史 城庵沙樹



# 1. はじめに

私たちは、コンセプトグラマー有限会社に約半年間インターンシップ生として実習を行った。本稿は、インターンシップの活動報告書である。

まず、インターンシップの実習するにあたって、私たちのインターンシップ先であるコンセプトグラマー有限会社について見ていくたい。

## ● 企業理念

無限の想像力によって世の中に「驚き」「感動」「笑顔」を提供する。  
全社員の物心両面の幸福を追求するとともに、人類、社会、文化の進歩発展に貢献する。<sup>(1)</sup>

## ● インターンシップを通して得たいもの、学びたいもの

得たいものや学びたいものは、インターンシップが始まる前に話し合った。私たちは、講座を企画し、運営するノウハウを学びたいということを決定し、インターンシップに臨んだ。これを学び、得るために集客とコミュニティ作りをテーマに置きながら、京都朝げいこの秋場所の企画と運営を行ってきた。

## ● 「京都朝げいこ」の3つの特徴

### ① 朝型の生活習慣を応援すること

1日の中でもっともよい状態にあるとされる朝に、早起きが楽しみになるような学びを提供することで、朝型のライフスタイルの支援を行なっている。

### ② 各分野のプロフェッショナルに学ぶことができる

カリキュラムも講師と繰り返し話し合いながら、日々の実践につなげるようなものを提供している。

### ③ 家庭でもなく、職場でもない、第3の居場所を提供すること

同じ目的を持った仲間が集うことで、サードコミュニティと呼ばれる居場所を作るきっかけを提供している。

図1<sup>1</sup>は、京都朝げいこのロゴマークとなっている。上記の3つの特徴を表したマークとなっている。

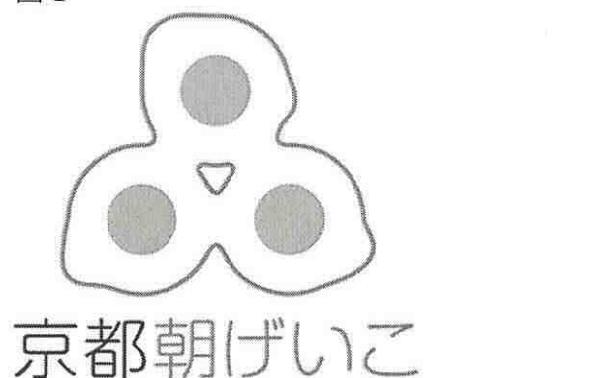
今回、京都朝げいこの秋場所を企画するにあたり、「京都朝げいこ」を体験することで学んだことを企画に活かしていくように、7月下旬から9月上旬に

---

<sup>1</sup> コンセプトグラマーホームページ <http://www.conceptglamour.com>  
(2015/11/19 最終アクセス) より引用

かけて行われた夏場所に実際に参加した。

図 1



## 2. 朝げいこ 夏場所への参加

秋講座を企画するにあたり、朝げいこ夏場所に参加した。夏場所に参加することにより、講座の雰囲気、受講生の講座に対する意識、モチベーションなどを肌で感じることができた。

### ● 朝げいこ 夏場所

朝げいこ夏場所は7月21日から9月18日の約1カ月半行われた。夏場所は、募集時点では、8講座を予定していた。しかし、予想していたよりも受講者数が見込まれず、結果として7講座の開講になった。私達が参加した4つの講座、英語で京都案内講座、ゴスペル講座、PR講座ライティング講座について講座・受講生の特徴、秋講座に向けての気づきを述べていく。

### ● 英語で京都案内講座

この講座では、通訳案内士の講師から京都を愉しむための作法や習慣を英語で伝える方法を学ぶ。講師と共に観光地でガイドしたり、外国人とディスカッションをしたり、実践を通して英語を学んでいく。

#### ① 講座の特徴

夏場所最多の20名による講座であり、そのうち女性が17名、男性が3名であった。講座は、机といすを並べる講座形式に加え、いすを円形に並べた対話形式、フィールドワークなども行われた。

## ② 受講生の特徴

通訳案内士を目指して講座を受講している人。講師に積極的に質問、また、京都に関する展覧会などを訪問し、それについて講座で共有し合うなどの様子が見られたことから積極的に行動をする人がみられた。

## ③ 秋講座への気づき「講義の形式の工夫、話題・流行を察知する」

「講義形式の工夫」では、講義形式、会話形式を取り入れる事により毎回、飽きの来ない講座を提供することができる。また、フィールドワークを取り入れる事により新たな気づきや視点を取り入れることができるのでないか。

「話題・流行を察知する」では、世間で注目されつつある事柄にちなんだ講座を企画することにより、話題性などで受講者の獲得を狙うことができるのではないか。今回の場合、米国の大手旅行雑誌「トラベル+レジャー」で京都が2年連続で人気観光都市に選ばれる、2020年に開かれる東京オリンピックに向けて外国人が日本を訪れる機会が増え、英語の必要性が一層注目されるなどがニュースで話題になっていたことが受講生最多に繋がったのではないかと考えた。

## ● ブランドを強くするPR講座

この講座では、情報を発信し、広く伝える広報の仕事について、効果的な広報戦略と手法を学ぶ事、また、自ら情報を発信するにあたりどこに広げ、どう伝えるべきなのかその本質を理解し的確な手法を学ぶ事ができる。

## ① 講座の特徴

以前にも開講をされていた講座である。比較的少人数で行われており、今回は5人が受講していた。人数が少なく、講師の先生との距離が近く、講師の先生からの質問の投げかけが頻繁に行われていた。

## ② 受講生の特徴

仕事で、広報に携わっている人がさらに広報についての知識を深めるため受講している。今後、仕事で自身の活動や勤務先で行われるイベントを広めたいなどのビジネスに直結した目的で講座を受講している。

## ③ 秋講座への気づき「ターゲットを絞る」

「ターゲットを絞る」では、実際にこの講座を受講し、情報を発信する際に誰に向けてどのようなことを発信するのかを明確にすることにより、的確に自分の伝えたいことを発信することができるということを学んだ。この講座の受講生は5人そのうち女性は4人であった。この講座を含め他の講座を受講するほとんどの人が女性であった。また、働いている人が多いということが分かった。

ある程度ターゲットを絞ることにより、ターゲット層が必要としている講座を提供することができるのでないかと考えた。

### ● 朝に歌えばゴスペル講座

この講座では、本場アメリカでの経験をもつプロミュージシャンの講師の先生からゴスペルのルーツや歌う事の楽しさ、歌を通しての表現法を学ぶ事ができる。

#### ① 講座の特徴

誰でも気軽に始めることができる。コミュニティが他の講座よりも築かれやすい。(リピーターの人を中心にしてすでにコミュニティが作られており、新しく参加する人がそのコミュニティに入りやすい雰囲気が存在している。)

#### ② 受講生の特徴

仕事に活かすというよりは趣味の1つとして講座を受講している。また、今回の夏場所だけでなく、春場所、去年の秋場所でも開講されているゴスペル講座に参加していたリピーターが講座を受講している。そのため、すでにコミュニティが出来ていている。

#### ③ 秋講座への気づき「自らが楽しいと思える講座を企画する」

ゴスペル講座の様に朝からゴスペルをするには意外性があるかもしれない。しかし、趣味としての学びは、実際に応募を開始してみると集客の見込みが立て辛いことがある。数多くの人に受講をしてもらうためにも、自らがその講座の楽しさを自信を持って薦められるような工夫が必要であると考えた。

### ● 仕事に役立つライティング講座

この講座では、ビジネスで使う文章に加え、ツイッターやフェイスブックなどのプライベートな文章を書くためのコツやテクニックを学ぶことができる。

#### ① 講座の特徴

毎回、課題が出る。映像、味覚、絵本などを使用したユニークなカリキュラムの構成がみられた。1人で黙々と書き続けるのではなく2人1組になり、共同で作業をする場面もあり、受講生同士のコミュニケーションが生まれていた。

#### ② 受講生の特徴

日常的に書くという仕事をしている人。文章を書く事が得意、または好きで書くための技術、コツを学びたいと思っている人が多い。

### ③ 秋講座への気づき「継続させる」

この講座は、毎回の課題提出があった。紙だけでなく、SNS などの投稿で書くという行為を毎日している人は多いのではないか。朝げいこ時だけでなく、講座終了後も学んだことが活かせるような継続性を意識したカリキュラムを作成していこうと考えた。

秋講座に向けての気づきをまとめると「講義の形式を工夫する、話題・流行を察知する、ターゲットを絞る、自らが楽しいと思える講座を企画する、継続させる」などが挙げられた。以上のことと参考にしつつ、朝げいこ秋場所の企画を行っていった。



写真 1・1 英語で京都案内講座

(2015年9月 撮影者 川口)



写真 1・2 ブランドを強くする PR 講座

(2015年9月 撮影者 川口)



写真 1・3 朝に歌えばゴスペル講座

(2015年10月 撮影者 受け入れ先企業社員)



写真 1・4 仕事に役立つライティング講座

(2015年9月 撮影者 城庵)

## 3. 京都朝げいこ秋場所企画・運営

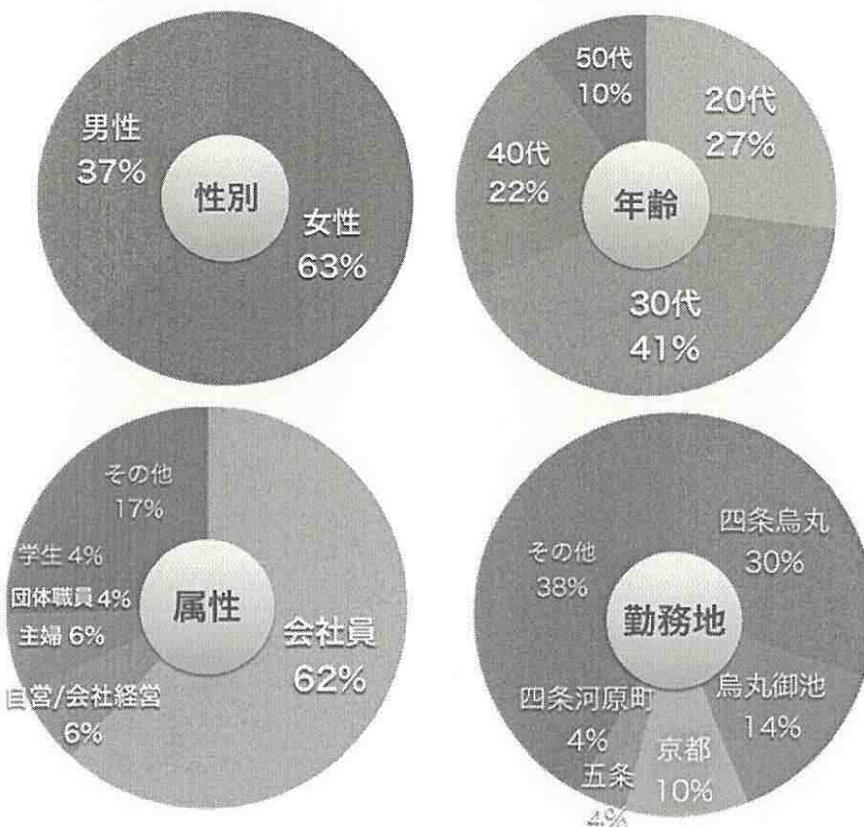
京都朝げいこの秋場所の企画は、今回のインターンシップにおけるメインテーマである。

## ● スケジュール作成

京都朝げいこを経験していない私たちに、今後の見通しを立てるために必要なのが、スケジュールの作成である。昨年のスケジュールを参考にして、情報収集、企画、講師の選定、シラバスの作成、HPの原稿作成、リーフレットの原稿、リーフレット配布、講座の開講などの時期などを決定した。スケジュールをつくることにより、自ら期限をつくることができ、その期限に間に合うように意識して取り組む準備ができた。また、自分たちがやらなければならないこともリストアップすることができ、インターンシップ中にすることが明確になった。しかし、最初に確認することはできたが、作成後表、と進捗状況とのズレを確認することができなかつた。

## ● 情報収集

京都朝げいこの企画をするうえで必要になるのが、情報収集。まずは、京都朝げいこの現状を知るために、受講生の客層などのデータをいただいた。



参照：<http://asageiko.jp/about/> (2015/11/19 最終アクセス)

上の図から女性が多いこと、30代の方が多いこと、会社員など働いている人

が多いこと、勤務地が四条烏丸周辺が多いことなどがわかる。

情報収集のやり方は、カルチャースクールのチラシを見ることや、インターネットにより、朝活でどのようなことが行われているかなどである。また、7月16日のプロアクションカフェにより、プログレスコースの受講生に、どのような講座であれば受講したいかという案を出してもらい、企画を行うまでの参考とした。プロアクションカフェでは、私たちだけでは思いつかないような案が上がり、参考にすることができた。

## ● 企画

情報収集を行い、それを基に京都朝げいこ秋場所で行う企画原案などを得ることができた。全体ミーティングを行い、実際に開講する企画案を絞り、私たちは絵画・絵手紙・ペン字の企画を担当することになった。

7月下旬から8月上旬にかけて、絵画・絵手紙・ペン字講座では、絵画・絵手紙からカレンダーを作成してもらうこと、ペン字からはカリグラフィーを行うという企画案ができた。京都朝げいこを通じて、1つの成果、形を目にする形で残したいという思いがあったので、カレンダー作成をすることにした。カリグラフィーは、案が思いつかずにいる頃に、西村先生に相談をしに行き、カリグラフィーならば、短い時間でも習得できるのではないかとアドバイスをいただき、その方針で進めた。

ミーティングを進めていく中で、絵画・絵手紙・ペン字の企画を変更し、字を美しくする講座の企画が受講生に求められているものではないかと考え、企画の方向転換を行った。

講師の選定なども自らリストアップし、京都で有名な書道家である新見知ふみ先生にお願いすることができた。

結果として、「思わず見とれる、文字の書き方 大人の美文字講座」の企画することができた。企画の内容としては、自分の名前、筆跡診断、ひらがな、カタカナ、のし袋に書く場合の注意点、日本の苗字トップ20、あて名書き、デザイン書道、オリジナル年賀状作成などを行う講座である。

参考：<http://asageiko.jp/course/bimoji/> (2015/11/19 最終アクセス)

### ① カリキュラムの作成

カリキュラムは、講座の根幹になる部分であり、受講生がワクワクするようなカリキュラムを作成しなければ、集客を見込めない。カリキュラムの作成では、大人の美文字講座の内容だけでなく、秋食材を生かすストウブ料理講座、人を魅了する話し方講座の原案なども作成した。講座を具体化させる工程であり、8回という限りある回数で何を盛り込むか考えた。

絵画・絵手紙・ペン字の企画案は、自分たちの視点で考えたものであった。受講する立場を考えておらず、どこに焦点を合わせるのかを見失っていた。ターゲットの視点に立って企画しなければ、受講生を集め企画ができないことを学

べた。

また、ウォンツとニーズという考え方を知ることができた。needsは商品やサービスに対して、消費者の求めている必要性です。wantsは「needs」よりも、もっと踏み込んだ、商品に対しての欲求です。このことを生かすことにより、今までとは違った考え方ができるようになった。

## ② 講師の選定

関西圏に住む有名な書道家を5名程度リストアップし、その中から新見知ふみ先生という講師に依頼した。はじめはメールでアポイントを取り、お互いに予定の合う日程を決め、実際に講師の先生を引き受けてもらうことができた。講師が決まったことにより、講座内容のできることとできないことがはっきりわかり、現実的なカリキュラムへと変貌した。

## ● 京都朝げいこ運営

京都朝げいこの運営も行った。リーフレットの作成や配布、運営日誌の更新などを行った。

### ① リーフレット

受講生を集めるために、京都朝げいこではリーフレットを作成している。その中の、講座の概要や、リーフレットのレイアウトなどの原案を考えた。リーフレットのサイズなど、考えていくうえで、改善が行えた。

また、作成したリーフレットの配布は、ターゲットとなる会社員の出勤が重なるAM8:00~9:30に合わせて行った。四条烏丸周辺・烏丸御池周辺で配布した。

### ② 運営日誌

京都朝げいこの講座がどのような様子で行われているのか、開講する講座を詳しく知るために、京都朝げいこではスタッフ運営日誌を更新している。運営日誌を更新するために、スケジュールを作成し、3人で決められた日に、記事を書くようにした。

参照：<http://asageiko.jp/staffblog/> (2015/11/19 最終アクセス)

## 4. インターンシップの成果

### ● 今回のプロジェクトの結果

私たちが企画した「おとの美文字講座」は結果的に、定員数20名に対し

て目標の10名を大きく上回る19名の受講生を集めることに成功した。カリキュラムを社員の方や講師の先生と話し合い、ブラッシュアップし、受講生の皆様に納得していただけるような内容を作り込んだ。たくさんアドバイスしていただき、最終的な形として、美文字の講座を企画し、ほぼ定員数集めることができた。

## ● インターンシップでの気づき

### 1. 社会の厳しさ、企画の難しさ

こちらがよいものを企画したと考えていたとしても、やりたいと思う人が集まらなければ、全て企画倒れになってしまう。「おとなの美文字講座」を企画する上でも、初めは、案として上がった文字や絵画という大きなテーマのもと、自分たちが企画したいものを考えていたが、今になって理解出来ることがだが、それでは集客は見込めない。自分たちが企画したいものが、必ずしもニーズに合っているとは限らないからである。ターゲットの年代、性別、客層に合わせたニーズをつかむことの難しさに関しても、今回のインターンシップを通して学んだことである。

### 2. 視野の広がり

京都朝げいこを通して、職種や年齢が多種多様の社会人の方々と出会う機会が生まれ、様々な話を聞くことができた。社会人になってから、そういった自分の職場以外で働く人と出会うことは、非常に重要なことである。社会人になってから、そういったたくさんの人と出会う姿勢を学んだ。

### 3. 時間の大切さ

朝早く起き、その道のプロフェッショナルに学ぶことができる「朝げいこ」には、朝型のライフスタイル支援という重要な役目も果たしている。朝早く起きることで、する時間がないと言い訳していたことがスムーズにできたり、時間を効率的に使うことで、違った視点から自分を客観視できる時間が生まれたりすることを知ることができた。

### 4. 情報共有の大切さ

今回は、3人のインターンシップ生が参加し、必ずしも3人が参加できるわけではなかった。そんな時に重要となるのが、情報共有である。その日参加できなかつた場合にも、その日行った実習内容について知ることができれば、次に参加するときにスムーズに実習を進めることができる。共有サイトやメール、Facebook、SNS等を通して、実習内容は実習した当日に共有するように全員で心がけた。もちろんそれだけでは不十分な部分もあるため、実習の最初の時間を使い、再度連絡するようにしていた。情報共有ができていなければ、参加していない人は情報を入手することができない。そうなると、実習に影響

が出てしまうのである。そうしたことから、情報共有の重要性について再度認識することができた。

## 5. おわりに

今回のインターンシップを通して、前章で述べたような気づきを学ぶことができた。「京都朝げいこ」の企画や運営を通して、普段大学の講義やアルバイトなどからは得ることができない貴重な経験をさせていただいたと感じている。企画する上で、なかなか前に進まず悩むこともあったが、最終的に最高の結果を出すことが出来たのは、社員の方々や講師の先生のアドバイス、受講生の方々と出会い、直接話することで、刺激を受けながら日々過ごせたからである。私たちがインターンシップをする上で、関わった全ての方々に感謝の意を表したい。